複素関数 $f(z) \in \mathbb{C}[z]$ が正則であるとする。

線分 z = t + it $(t \in \mathbb{R}, 0 \le t \le 1)$ 上で $f(z) = it^2$ となる関数 f(z) を全て求めよ。

.....

一致の定理より複素平面上で正則な関数は線分 z=t+it 上で一致すれば全体でも一致する。

f(z) は正則であるので、Taylor 展開を考える。

f'(z)を計算する。

$$f'(z) = \lim_{\Delta z \to 0} \frac{f(z + \Delta z) - f(z)}{\Delta z} = \lim_{h \to 0} \frac{f((t + it) + (h + ih)) - f(t + it)}{h + ih}$$
(1)

$$= \lim_{h \to 0} \frac{i(t+h)^2 - it^2}{h(1+i)} = \lim_{h \to 0} \frac{i(2t+h)}{1+i} = \frac{2ti}{1+i} = (1+i)t$$
 (2)

同様に f''(z), f'''(z) も求める。

$$f''(z) = \lim_{\Delta z \to 0} \frac{f'(z + \Delta z) - f'(z)}{\Delta z} = \lim_{h \to 0} \frac{(1+i)(t+h) - (1+i)t}{h+ih} = 1$$
 (3)

f''(z)=1 となり、3 次の導関数以降 $f'''(z)=\cdots=0$ となる。

これらを用いて z=0 を中心とした Taylor 展開を行う。

$$f(z) = \sum_{k=0}^{\infty} \frac{f^{(k)}(0)}{k!} z^k = f(0) + f'(0)z + \frac{f''(0)}{2!} z^2 + \frac{f'''(0)}{3!} z^3 + \cdots$$
 (4)

$$=0+0z+\frac{1}{2}z^2+0z^3+\dots=\frac{1}{2}z^2\tag{5}$$

一致の定理より線分上で一致する正則関数は $f(z)=\frac{1}{2}z^2$ のみとなる。